

## 会議結果報告書

会議の名称	平成 28 年度第 1 回札幌市子ども・子育て会議
日時・場所	平成 28 年 9 月 15 日（木）13：30～15：30 札幌市役所本庁舎 16 階 第 1 特別委員会会議室
出席委員 24 名/30 名中	安藤慎也、上田厚子、大久保薫、岡田光子、金子勇、菊地秀一、齋藤寛子、品川ひろみ、芝木捷子、柴田田鶴子、下村勝子、須藤桃代、高橋司、田中貞美、富岡美織、秦直樹、林進一、前田元照、松本伊智朗、松本直子、桃野秀之、吉田賢一、若松尚代、渡辺元
傍聴者数	2 名

議事	概要
<p>1. 新・さっぽろ子ども未来プラン平成 27 年度実施状況について</p> <p>①具体的な施策の進捗状況について</p> <p>②札幌市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について</p>	<p>&lt;事務局説明&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な施策の進捗状況について、資料 2-1 の中から抜粋して説明。</li> <li>・「札幌市子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況について、資料 2-3 に基づき説明。</li> </ul> <p>&lt;主な委員質問・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーク・ライフ・バランス認証企業の中で、どれだけの方が産休や育児休暇、子どもが病気のときの休暇・早退を活用できているか教えてほしい。</li> </ul> <p>⇒認証企業の中にもステップ 1 からステップ 3 までの 3 段階があり、就業規則が様々であるが、具体的な数値は把握していない。</p> <p>⇒制度としてあっても使われないと意味がないため、使える制度にしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の成果指標「子どもを産み育てやすい環境だと思う人の割合」の目標値が高いように感じるが、設定の根拠を知りたい。基本目標 2 の成果指標「希望に応じた保育サービスを利用することができた人の割合」もマイナスとなっており、子どもを預けて働くという希望がかなっていない方が非常に多いと感じた。</li> </ul> <p>⇒毎年 2.5 から 3% ずつ向上させていくよう目標を設定している。保育サービスの充実等も含め、目標値に達成できるように邁進してまいりたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・供給量の対策について、認可保育園の新規整備とは具体的にどのようなことか。</li> </ul> <p>⇒新たに認可保育所をつくるほか、保育園の定員を増やしていくことを考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認可外保育園が認可保育園にないサービスを補っている部分もあり、一律に認可的なサービスになった場合に、必要なサービスを受けられない人は出てこないか。</li> </ul>

	<p>⇒様々な保育ニーズについては、保育所だけではなく、その他のサービスでも提供していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもを産み育てやすい環境だと思ふ人の割合」で、20代、30代の割合が低いことに対してどのように考えているのか。</li> </ul> <p>⇒保育サービスの提供だけではなく、子育て施策全般を通じて対応していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「困難を有する若者が自立に向けて支援機関を利用し、職業訓練への参加や進路決定をした割合」がマイナスとなっているため、若者が札幌市の未来に希望を持って生活していけるよう留意してほしい。</li> </ul> <p>⇒職業や進路が決定するまでに、ある程度の期間を要すると考えられるが、今後も、若者に寄り添った形で相談に対応し、職業や進路の決定につなげていけるよう働きかけていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出生率の高い区では、自然、公園、保育園、幼稚園、病院、学校が非常に恵まれているが、出生率の低い区では、不備が目立っている。区ごとの差を平均にしていくよう取り組んでほしい。</li> <li>・「校内における子どもの支援体制の充実」の学びのサポーターについて、支援対象児童が増えている要因と介助アシスタントの利用実績について教えてほしい。</li> </ul> <p>⇒利用者は毎年、徐々にふえており、27年度に1,500人とピークに達している。学習だけではなく、休み時間の移動の手伝いのみの要望も多くなったため、27年度から介助アシスタント制度を設け、その利用実績は、小学校で60人程度となっている。</p>
<p>2. 児童虐待による死亡事例に係る検証報告について</p>	<p>&lt;事務局説明&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童福祉部会」の「検証ワーキンググループ」において取りまとめた「児童虐待による死亡事例に係る検証報告」について、資料3に基づき説明。</li> </ul> <p>&lt;主な委員質問・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健センターが継続支援再開を決定したが、連絡がつかずとあるが、電話連絡か訪問したのか。</li> </ul> <p>⇒携帯電話等に何度か電話をしたが、実母からの応答がなかったとのことである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話連絡がつかない世帯こそ、訪問できるような体制をきちんととっていく。地域で訪問するということが保健師活動のベースにあるべきだと思うので、原点をもう一度、確認してほしい。</li> <li>・父母と児童相談所が面談したときに精神科医師の立ち合いはあったのか。</li> </ul> <p>⇒父母が精神科に受診中の場合は同意を得て、精神科の主治医から話を聞くことはあるが、今回の事案については、精神科医師は立ち会っていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父母のケアのために、医師、専門家を立ち合わせることは大事であると</li> </ul>

	<p>思う。通報があった時点で医療機関と警察についても動いてほしい。</p> <p>⇒最初の通告があったときの調査の段階で、医師等の立ち会いは必要に応じてということになる。全てのケースについて直ちに立ち会うことの必要性については考えていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主任児童員は保育所、保健センターの保健師と結びついており、夜遅くや朝早くにも家庭訪問を行えるため、活用してほしい。</li> <li>・関係機関で情報を共有して、配慮を要する家庭の子は保育園や児童デイサービスに入りやすくするなど、いろいろな社会資源を使い、子どもが生きていきやすい状況をつくっていくことが急務ではないかを感じる。</li> </ul>
<p>3. (仮称) 札幌市児童相談体制強化プランについて (報告)</p>	<p>&lt;事務局説明&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童福祉部会」において議論を進めている、札幌市児童相談体制強化プランの取組項目について、資料4に基づき説明。</li> </ul> <p>&lt;主な委員質問・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理する側の強化プランとしては良いが、見知らぬ人に家庭のことを相談するというのはハードルが高いことである。問題を把握してから出向くのではなく、地域や町内会などと連携し、生活に密着している人、気軽に相談しやすい人を増やすことについても検討してほしい。</li> <li>・高度な専門性も大事であるが、行政機関と民間が連携し、子どもたちのために思いをいたし動いていくことにも留意してほしい。</li> <li>・児童相談所だけではなく、全体の問題とした観点でプランを考えることが大事である。保育所、幼稚園、母子保健をきちんと整備していくことや子ども虐待の予防に関しては、普遍的な制度に期待するのではなく、介入的な相談と支援の整理をどのようにしていくのかを考えることが大事であると思う。</li> <li>・全体の基本として、きちんと子どもと親が誰かに支えられているという仕組みをどのようにつくるかということを認識から外さず、児童福祉部会で今後の議論を進めていきたい。</li> <li>・行政機関と民間の連携だけではなく、社会全体がつながり合えば、事件も防いでいけると考えている。</li> <li>・連携に対する強化プランとして、子育て支援連携強化プランのようなものがあるとよいと思う。</li> </ul>
<p>4. 「(仮称) 子ども貧困対策計画」について (報告)</p>	<p>&lt;事務局説明&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「(仮称) 子ども貧困対策計画」の策定に係る実態調査について、資料5-1に基づき説明。</li> </ul> <p>&lt;主な委員質問・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査項目について、家計の経済状況の自己評価についても検討してほしい。</li> </ul> <p>⇒最初は自己評価を入れていたが、所得と家庭の人数について聞くため抜いている。</p>

<p>5. 各部会の決議状況について（報告）</p>	<p>&lt;事務局説明&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定こども園等の認可・確認状況について、計3回の認可・確認部会の開催状況を資料6に基づき報告。</li> </ul> <p>&lt;主な委員質問・意見&gt;</p> <p>特になし。</p>
<p>6. その他</p>	<p>&lt;事務局説明&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士確保のための規制緩和措置について、現時点においては、条例改正をせず、現状の配置基準を維持することが適当であるとの判断に至り、当日資料に基づき説明。</li> </ul> <p>&lt;主な委員質問・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士の給料についての検討はどのようになっているのか。</li> </ul> <p>⇒国の施策による全国均一の処遇の改善が必要であると考えている。現在の国の動きは、子ども・子育て支援新制度のもとで処遇改善等加算が恒久的な制度として位置づけられ、29年度も処遇の改善を図ることを公表しているため、今後も推移を見てまいりたい。</p> <p>⇒大学を出ている子は、民間に比べると給料が低いことが保育士を継続できない理由としてあると思うので、検討してほしい。</p> <p>⇒保育士の生活の支援を図るため、就学資金の貸し付け等も考えている。保育士の資格を取得して5年間継続して保育士として勤めた場合に返済を免除するというものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の問題について全体的に見ると、保育所の制度の中身がどんどん変わってきており、規制緩和だけの問題ではないと感じている。子どもたちが安心して安全に園での生活を送れるように、制度が変わって振りまわされないようにしてほしい。</li> <li>・保育士の給料が低いと言われるのは、事実を見てくれてうれしい反面、保育士を希望する若者が、給料が低いことを理由に他の仕事を選んでほしくないと思う。保育士は、とても大切な仕事で、意義がある仕事なのだとして社会全体が思ってもらえるような、そういう社会的な評価をぜひ全体でつくり上げてほしい。</li> </ul>